

6

OSD(On Screen Display)機能の使い方

SIGMABLADEモニターファームウェアに内蔵しているOSD (On Screen Display) 機能を起動することによって、以下の機能を利用することができます。操作はブレード収納ユニットに接続したPS/2キーボードから行います。

- ラック、ブレード収納ユニット、CPUブレードの名称、KVM(Keyboard・Video・Mouse)の選択状態、DVD/USBの選択状態、CPUブレードの状態を表示します。
- KVMとCPUブレードとの接続を選択して切り替えることができます。
- ブレード収納ユニットに搭載されているDVD-ROM、前面USBポートとCPUブレードとの接続を選択して切り替えることができます。
- CPUブレードのスイッチ操作をOSDメニューから行うことができます。
- ラック、ブレード収納ユニット、CPUブレードの名称を変更することができます。
- KVMが接続されているCPUブレードの名称をディスプレイに常時表示することができます。

OSDの表示モードには以下の3つのモードがあります。

－ OSDメニューモード

ディスプレイ画面にOSDメニューを表示し、キーボード入力によってOSDの各種機能を実行します。

－ OSD簡易モード

ディスプレイ画面に現在KVMが接続されているCPUブレード名を表示し、キーボードからCPUブレードが実装されているスロット番号を直接入力してKVMの切り替えを行います。

－ サーバ名常時表示モード

OSD簡易モードでサーバ名の常時表示／非表示機能をONに設定することによって、ディスプレイ画面に現在KVMが接続されているCPUブレード名を常時表示することができます。常時表示／非表示どちらのモードでもOSDメニューモード、OSD簡易モードを起動することができます。



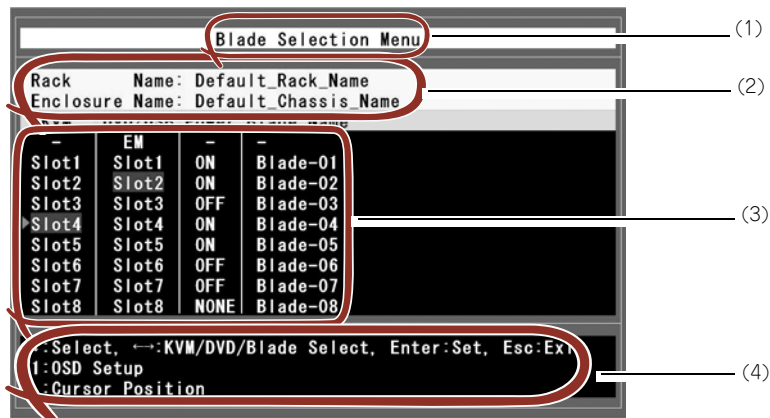
ブレード収納ユニットにはビデオ信号ジェネレータを内蔵していますので、KVM接続先のCPUブレードが電源OFFの状態でもOSDによる画面表示が可能です。この場合の解像度は640x480固定となります。



- EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合、CPUブレードにKVM、DVD/USBを接続することができません。EMカードが正常に動作していることを確認してください。
- KVMを切り替えた際、CPUブレードへのキー入力の有効になるまで数秒かかる場合があります。

OSDメニューモード

OSDメニューモードはメインメニューと各コントロールメニューから構成されます。
OSDメニューモードを起動するとメインメニュー(Blade Selection Menu)が表示されます。



- (1) メニュータイトルを表示します。
- (2) ラック名、ブレード収納ユニット名を表示します。
- (3) メインメニューではKVM選択、DVD/USB選択、CPUブレードの状態、CPUブレード名を一覧表示します。各コントロールメニューではメニュー項目リストを表示します。
- (4) 操作キーの説明、各コントロールメニューでの入力項目などを表示するウィンドウです。

OSDメニューモードの起動

キーボードからホットキーを入力し、OSDメニューモードを起動します。
ホットキーの設定はOSDメニューモード、または、SIGMABLADEモニターのOSDセットアップメニューで変更可能です。

- **ホットキー選択可能キー**

OSDメニューモードを起動するホットキーは下記の2種類から選択できます。
<Scroll Lock> キーを2回連続で押下して離す (キーは素早く押ししてください)
<Ctrl>, <Alt>, <Shift>の3つのキーを同時に押下して離す。

- **操作タイムアウト**

約1分以上キーボード操作がない場合、OSDメニューモードを終了します。



OSDメニューモード動作中はOSDの操作にキーボードを使用しますので、CPUブレードで動作しているオペレーティングシステムなどをキーボードで操作することはできません。操作したい場合はOSDメニューモードを終了してください。マウスによる操作はOSDメニューモード動作中も可能です。

OSDメニューモードの操作

OSDメニューモードには大きく分けて以下の5つのメニューがあります。

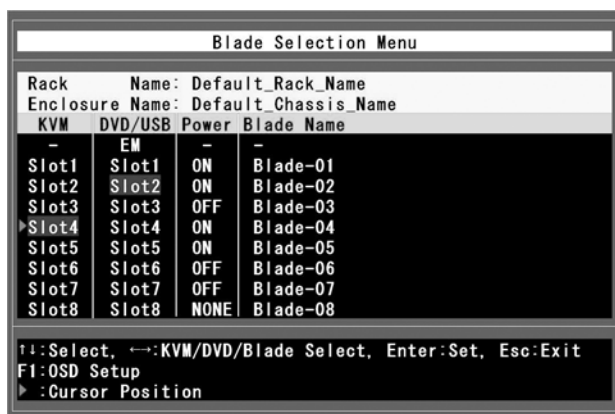
- Blade Selection Menu (メインメニュー)
- Blade Control Menu
- Rack Control Menu
- Enclosure Control Menu
- OSD Setup Menu

Blade Selection Menu (メインメニュー)

OSDメニューモードを起動した場合に表示されるメニュー画面です。

KVM、DVD/USBの選択状態、CPUブレードの状態、CPUブレード名、ラック名、ブレード収納ユニット名を表示します。

KVM/DVDの接続切り替え操作、各メニュー項目の起動操作を行います。



画面表示

表示項目	説明
Rack Name	ラック名を表示します。
Enclosure Name	ブレード収納ユニット名（エンクロージャ名）を表示します。
KVM	KVM選択状態を表示します。 選択されているCPUブレードのスロット番号の背景が青色で表示されます。
DVD/USB	DVD/USB選択状態を表示します。 選択されているCPUブレードのスロット番号、または、EMの背景が青色で表示されます。EMはEMカードを示します。
Power	CPUブレードの状態を表示します。 ON： CPUブレードの電源がONの状態 OFF： CPUブレードの電源がOFFの状態 NONE： CPUブレードが接続されていない状態 N/A： CPUブレードの状態が不明の場合

表示項目	説明
Blade Name	CPUブレード名を表示します。



- [Rack Name]、[Enclosure Name]、[Blade Name]はEMカードから設定されます。EMカードが正常に動作していない場合は以下の初期値が表示されます。初期値が表示されている場合はEMカードが正常に動作しているか確認してください。

Rack Name : Default_Rack_Name
 Enclosure Name : Default_Chassis_Name
 Blade Name : Blade-01 ~ Blade-08

- Express5800/120Bb-m6のような2スロット幅を占有する CPUブレードを実装した場合、実装した右側のスロットの Blade Name、Powerの表示は初期値のままです。また、後述する「Blade Control Menu」も右側のスロットでは使用できません。

キー操作

使用キー	機能
<↑><↓><←><→>キー	カーソルを移動します。
<Enter>キー	カーソル位置でのメニュー操作を実行します。
<Esc>キー	OSDメニューを終了します。
<R>キー	[Rack Control Menu]を起動します。
<E>キー	[Enclosure Control Menu]を起動します。
<F1>キー	[OSD Setup Menu]を起動します。
<K>キー	KVM選択表示部の[Slot1]の位置にカーソルを移動します。
<D>、<U>キー	DVD/USB選択表示部の[Slot1]の位置にカーソルを移動します。
<S>キー	Blade Name表示部の[Slot1]のブレード名の位置にカーソルを移動します。
<1>~<8>キー	[Slot1]~[Slot8]のスロット番号を直接選択する場合に使用します。

Blade Selection Menuの操作

項目	説明
KVM切り替え	[Slot1]~[Slot8]をカーソルで選択し<Enter>キー押下で、選択したスロット番号のCPUブレードへKVM接続を切り替えます。 または、KVM選択表示部にカーソルがある状態で<1>~<8>キーを押下すると指定したスロット番号のCPUブレードに接続を切り替えます。(*1)(*3)
DVD/USB切り替え	[Slot1]~[Slot8]または[EM]をカーソルで選択し<Enter>キー押下で、選択したスロット番号のCPUブレードまたはEMカードへDVD/USB接続を切り替えます。 または、DVD/USB選択表示部にカーソルがある状態で、<1>~<8>キーを押下すると指定したスロット番号のCPUブレードに接続を切り替えます。(*1)(*3)
[Blade Control Menu]の起動	Blade Nameをカーソルで選択し<Enter>キー押下で、[Blade Control Menu]を表示します。 または、Blade Name表示部にカーソルがある状態で、<1>~<8>キーを押下すると指定したスロット番号のCPUブレードの[Blade Control Menu]を表示します。(*2)(*4)
[Rack Control Menu]の起動	Rack Nameをカーソルで選択し<Enter>キー押下、または、<R>キー押下で、[Rack Control Menu]を表示します。(*2)
[Enclosure Control Menu]の起動	Enclosure Nameをカーソルで選択し<Enter>キー押下、または、<E>キー押下で、[Enclosure Control Menu]を表示します。(*2)
[OSD Setup Menu]の起動	<F1>キー押下で、[OSD Setup Menu]を表示します。
OSDメニューモードの終了	<Esc>キー押下で、OSDメニューモードを終了します。

*1: KVM、DVD/USB選択では選択されたCPUブレードの状態に関わらず切り替えを行います。ただし、現在選択されているCPUブレードのスロット番号、または、EMカードを選択した場合は接続切り替えを行いません。

KVM接続先に電源OFF状態のCPUブレードが選択された場合、ブレード収納ユニットに内蔵しているビデオジェネレータによってOSD画面を表示します。解像度は640x480固定となります。

*2: メニューを表示する際にセキュリティパスワードの入力を要求します。

*3: Express5800/120Bb-m6、およびExpress5800/B140a-Tのような2スロットを占有するCPUブレードが搭載されている場合は、搭載されているスロットのうち番号が大きいスロットを選択しても、番号が小さいスロットに自動的に切り替わります。既に当該CPUブレードが選択されている場合でも、大きいスロットのCPUブレード番号を選択して、Enter押下した場合は、切り替えを実行します。

*4: Express5800/120Bb-m6、およびExpress5800/B140a-Tのような2スロットを占有するCPUブレードが搭載されている場合は、搭載されているスロットのうち番号が小さいスロットを選択してください。大きいスロットは未実装状態の扱いとなります。

KVMの切り替え

[Blade Selection Menu]でKVMの接続を切り替えることができます。

KVM接続表示部で切り替えたいCPUブレードの-slot番号[Slot1]～[Slot8]をカーソルで選択し、<Enter>キーを押下することで、KVMを選択されたCPUブレードに切り替えます。<Enter>キーを押下すると一旦KVMを切り離し、約2秒後に選択したCPUブレードに接続します。この間画面表示がOFFになり、KVM接続後 [Blade Selection Menu]が再表示されます。

または、カーソルがKVM選択表示部の[Slot1]～[Slot8]のどこかにある状態で<1>～<8>キーを押下することで、指定したslot番号のCPUブレードに接続を切り替えることができます。

Blade Selection Menu			
Rack		Name: Default_Rack_Name	
Enclosure		Name: Default_Chassis_Name	
KVM	DVD/USB	Power	Blade Name
-	EM	-	-
Slot1	Slot1	ON	Blade-01
▶Slot2	Slot2	ON	Blade-02
Slot3	Slot3	OFF	Blade-03
Slot4	Slot4	ON	Blade-04
Slot5	Slot5	ON	Blade-05
Slot6	Slot6	OFF	Blade-06
Slot7	Slot7	OFF	Blade-07
Slot8	Slot8	NONE	Blade-08

↑↓:Select, ←→:KVM/DVD/Blade Select, Enter:Set, Esc:Exit
F1:OSD Setup
▶ :Cursor Position



重要

- EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合は、保護機能によりKVMの接続を行わない場合があります。操作したいCPUブレードを正しく選択してもKVMが使用できない場合はEMカードが正常に動作しているか確認してください。
- CPUブレードの起動中にKVMを接続したり、切り離したりしないでください。CPUブレードが正常に起動できない場合があります。
- KVMを切り替えた際、CPUブレードへのキー入力が有効になるまで数秒かかる場合があります。

DVD/USBの切り替え

[Blade Selection Menu]でDVDと前面のUSBポートの接続を切り替えることができます。DVD/USB接続表示部で切り替えたいCPUブレードのスロット番号[Slot1]～[Slot8]、または[EM]をカーソルで選択し、<Enter>キーを押下することで、DVDと前面のUSBポートを選択されたCPUブレードまたはEMカードに切り替えます。

<Enter>キーを押下すると一旦DVD/USBを切り離し、約3秒後に選択したCPUブレードまたはEMカードに接続します。接続後、DVD/USB接続表示が切り替え後のCPUブレードまたはEMカードに変わります。

または、カーソルがDVD/USB選択表示部の[Slot1]～[Slot8]、[EM]のどこかにある状態で<1>～<8>キーを押下することで、指定したスロット番号のCPUブレードに接続を切り替えることができます。

Blade Selection Menu			
Rack Name: Default_Rack_Name		Enclosure Name: Default_Chassis_Name	
KVM	DVD/USB	Power	Blade Name
-	EM	-	-
Slot1	Slot1	ON	Blade-01
Slot2	Slot2	ON	Blade-02
Slot3	Slot3	OFF	Blade-03
Slot4	Slot4	ON	Blade-04
Slot5	Slot5	ON	Blade-05
Slot6	Slot6	OFF	Blade-06
Slot7	Slot7	OFF	Blade-07
Slot8	Slot8	NONE	Blade-08

↑:Select, ←:KVM/DVD/Blade Select, Enter:Set, Esc:Exit
F1:OSD Setup
▶:Cursor Position

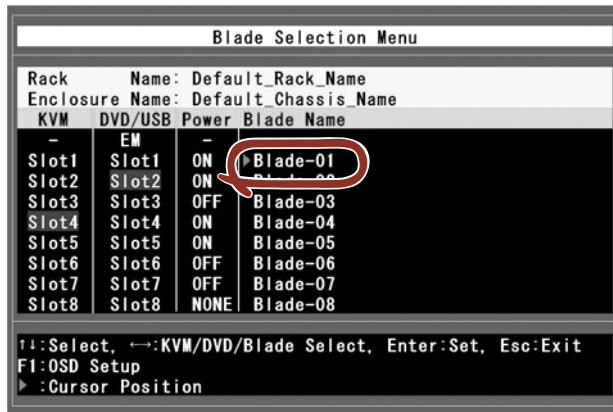


重要

- EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合は、保護機能により DVD/USBの接続を行わない場合があります。操作したいCPUブレードを正しく選択してもDVD/USBが使用できない場合はEMカードが正常に動作しているか確認してください。
- CPUブレードでDVD/USB接続機器を操作しているときにDVD/USB切り替えを行うと誤動作する可能性があります。CPUブレードでの操作を終了（DVD/USB接続機器の安全な取り外しを実行）してから切り替えを行ってください。
- CPUブレードの起動中にDVD/USBを接続したり、切り離したりしないでください。CPUブレードが正常に起動できない場合があります。

Blade Control Menu

[Blade Selection Menu]のBlade Name表示部で操作したいCPUブレード名をカーソルで選択し<Enter>キー押下することで、[Blade Control Menu]を起動することができます。起動時にパスワード入力ウィンドウが表示され、パスワード入力後[Blade Control Menu]が表示されます。



パスワード保護されたコントロールメニューを表示する場合、パスワード入力ウィンドウが表示されます。



パスワードをキーボードから入力し、設定されているパスワードと一致した場合、各コントロールメニューを表示します。パスワード未設定の場合は、パスワード未入力で<Enter>キー押下で、各コントロールメニューを表示します。パスワード不一致の場合は[Blade Selection Menu]に戻ります。

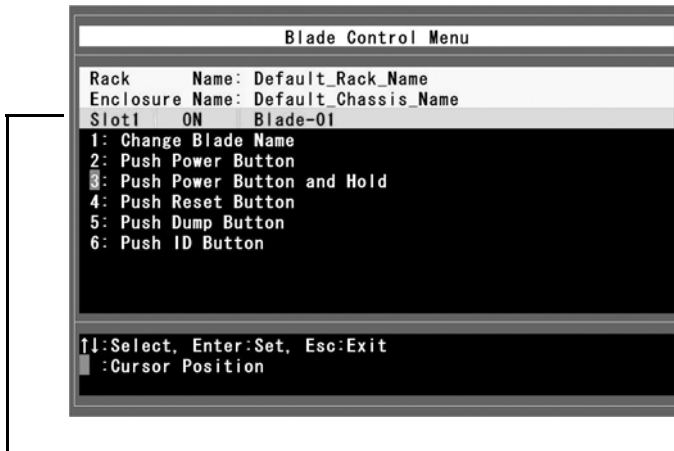


出荷時設定はパスワード未設定です。後述する「OSDパスワードの設定」を参照し、パスワードを変更してください。

パスワード不一致の場合、下記のエラーが表示されます。
<Esc>キー押下で[Blade Selection Menu]に戻ります。
[Blade Control Menu]を起動すると下記のように表示されます。



<Esc>キー押下で[Blade Selection Menu]に戻ります。



選択されたCPUブレードのスロット番号/状態/名称が表示されます

メニュー項目

項目	機能
1 : Change Blade Name	選択して<Enter>キー押下、または、<1>キー押下で、Blade Name入力ウィンドウを表示します。
2 : Push Power Button	選択して<Enter>キー押下、または、<2>キー押下で、EMカードからPOWERスイッチ押下に相当する処理を行います。
3 : Push Power Button and Hold	選択して<Enter>キー押下、または、<3>キー押下で、EMカードからPOWERスイッチ4秒以上押下に相当する処理を行います。
4 : Push Reset Button	選択して<Enter>キー押下、または、<4>キー押下で、EMカードからRESETスイッチ押下に相当する処理を行います。
5 : Push Dump Button	選択して<Enter>キー押下、または、<5>キー押下で、EMカードからDUMPスイッチ押下に相当する処理を行います。
6 : Push ID Button	選択して<Enter>キー押下、または、<6>キー押下で、EMカードからIDスイッチ押下に相当する処理を行います。

*1: [2]～[6]の各メニューの実行はEMカードが制御します。EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合はエラーメッセージを表示します。



Express5800/120Bb-m6のような2スロット幅を占有するCPUブレードを実装した場合、実装した右側のスロットでは使用できません。左側のスロットのメニューで実行してください。

CPUブレード名の変更

[Blade Control Menu]で「1: Change Blade Name」を選択して<Enter>キー押下、または、<1>キー押下するとBlade Name入力ウィンドウが下記のように表示されます。



現在のCPUブレード名が表示されますのでキーボード入力によって名称を変更します。<Enter>キー押下で入力を確認します。CPUブレード名に使用できない文字が含まれている場合、または、null (名称なし) の場合はエラーを表示します。変更しない場合は<Esc>キー押下で[Blade Control Menu]に戻ります。



使用可能な文字は、A~Z、a~z、0~9、- (ハイフン) です。
登録可能文字数は最大32文字です。文字入力時は下記のキーが使用できます。

使用キー	機能
<Enter>キー	入力を確認します。
<Esc>キー	入力を中止します。 入力した文字は破棄され名称は変更されません。
<←><→>キー	カーソルを移動します。
<Insert>キー	文字の挿入モード/上書きモードを切り替えます。 挿入モード時 : カーソルがマゼンタ色で表示されます。 上書きモード時 : カーソルが黄色で表示されます。
<Delete>キー	カーソル位置の文字を1文字削除します。
<Back Space>キー	カーソルの1つ前の文字を1文字削除しカーソルを移動します。



ESMPRO/ServerAgentを使用されている場合、本機能を使用してブレード名を変更しないでください。
ESMPRO/ServerAgentが、OS上のホスト名をブレード名として設定します。

CPUブレード名に使用できない文字が含まれている場合、下記のエラーを表示します。
<Esc>キー押下で[Blade Control Menu]に戻ります。



CPUブレードを実装していないスロット、もしくは2スロット幅を占有するCPUブレードを実装した右側のスロットのCPUブレード名は変更しても初期値に戻ります。

CPUブレードの操作

[Blade Control Menu]でメニュー番号[2]~[6]を選択した場合、CPUブレードの操作要求をEMカードに通知し、EMカードがCPUブレードの操作を実行します。

[2 : Push Power Button]

CPUブレードのPOWERスイッチ押下に相当する処理を行います。

[3 : Push Power Button and Hold]

CPUブレードのPOWERスイッチ4秒以上押下に相当する処理を行います。

[4 : Push Reset Button]

CPUブレードのRESETスイッチ押下に相当する処理を行います。

[5 : Push Dump Button]

CPUブレードのDUMPスイッチ押下に相当する処理を行います。

[6 : Push ID Button]

CPUブレードのIDスイッチ押下に相当する処理を行います。

EMカードへの操作要求が正常に受け付けられた場合、下記のように表示されます。

<Esc>キー押下で[Blade Control Menu]に戻ります。



EMカードへの操作要求が正常に受け付けられなかった場合、下記のエラーを表示します。

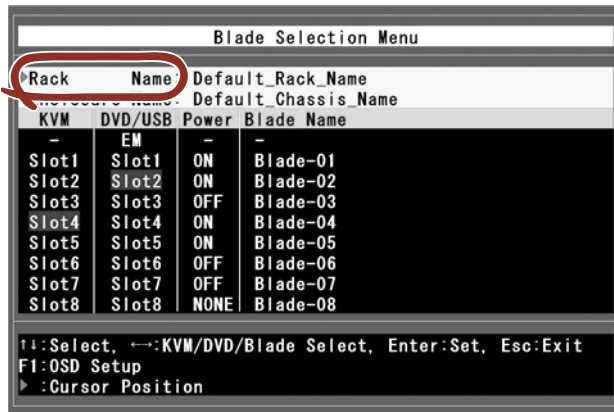
<Esc>キー押下で[Blade Control Menu]に戻ります。



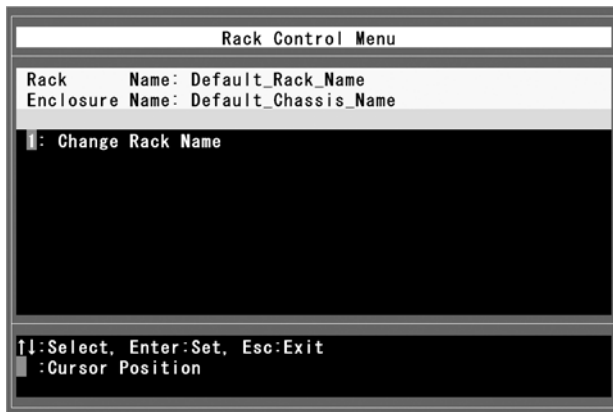
CPUブレードの操作要求でエラーとなった場合はEMカードまたはCPUブレードが正常に動作しているか確認してください。

Rack Control Menu

[Blade Selection Menu]でRack Name表示部をカーソルで選択し、<Enter>キー押下、または、<R>キーを押下することで、[Rack Control Menu]を起動することができます。起動時にパスワード入力ウィンドウが表示され、パスワード入力後[Rack Control Menu]が表示されます。

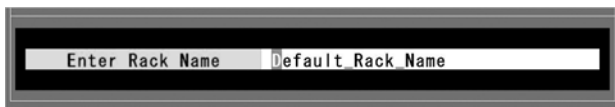


[Rack Control Menu]を起動すると下記のように表示されます。
 <Esc>キー押下で[Blade Selection Menu]に戻ります。



ラック名の変更

[Rack Control Menu]で「1: Change Rack Name」を選択して<Enter>キー押下、または、<1>キー押下するとRack Name 入力ウィンドウが下記のように表示されます。



現在のラック名が表示されますのでキーボード入力によって名称を変更します。<Enter>キー押下で入力を確定します。ラック名に使用できない文字が含まれている場合、エラーを表示します。ラック名にはnull（名称なし）も設定可能です。その場合は全ての文字を削除して<Enter>キーを押下します。変更しない場合は<Esc>キー押下で[Rack Control Menu]に戻ります。



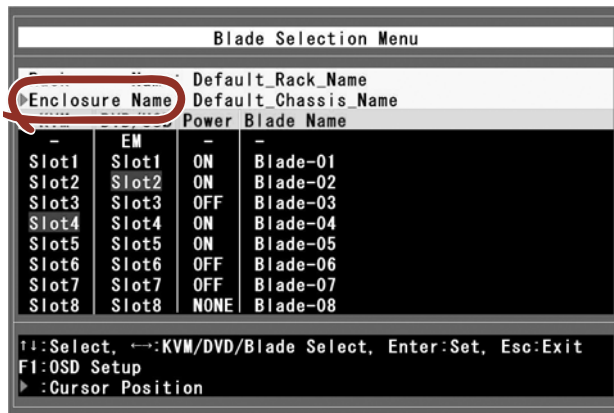
使用可能な文字は、A~Z、a~z、0~9、-（ハイフン）、.（ピリオド）、_（アンダースコア）です。登録可能文字数は最大32文字です。キー操作は前述の「CPUブレード名の変更」を参照してください。

ラック名に使用できない文字が含まれている場合、下記のエラーを表示します。<Esc>キー押下で[Rack Control Menu]に戻ります。

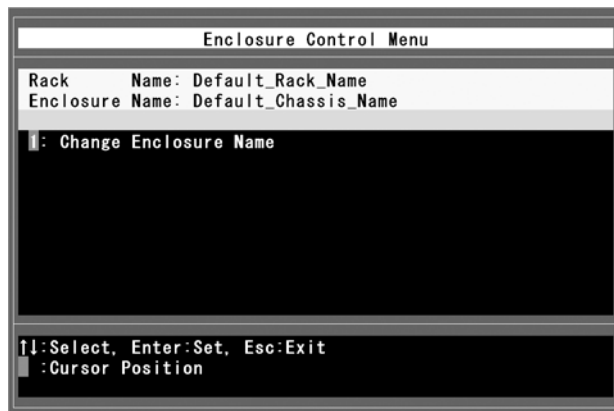


Enclosure Control Menu

[Blade Selection Menu]でEnclosure Name表示部をカーソルで選択し、<Enter>キー押下、または、<E>キーを押下することで、[Enclosure Control Menu]を起動することができます。起動時にパスワード入力ウィンドウが表示され、パスワード入力後[Enclosure Control Menu]が表示されます。

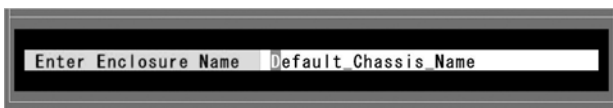


[Enclosure Control Menu]を起動すると下記のように表示されます。
<Esc>キー押下で[Blade Selection Menu]に戻ります。



ブレード収納ユニット名の変更

[Enclosure Control Menu]で「1: Change Enclosure Name」を選択して<Enter>キー押下、または、<1>キー押下するとEnclosure Name入力ウィンドウが下記のように表示されます。



現在のブレード収納ユニット名（エンクロージャ名）が表示されますのでキーボード入力によって名称を変更します。<Enter>キー押下で入力を確定します。ブレード収納ユニット名（エンクロージャ名）に使用できない文字が含まれている場合、または、null（名称なし）の場合はエラーを表示します。変更しない場合は<Esc>キー押下で[Enclosure Control Menu]に戻ります。



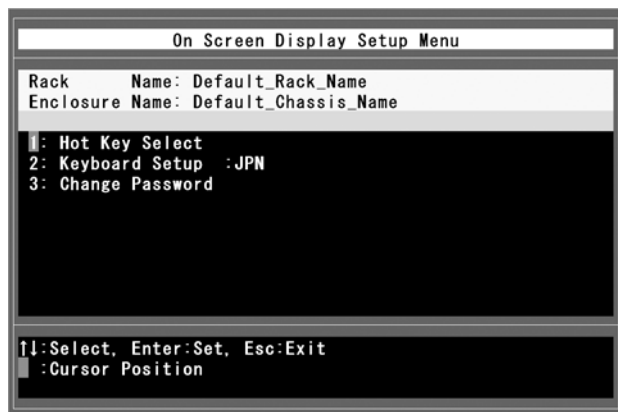
使用可能な文字は、A～Z、a～z、0～9、-（ハイフン）、.（ピリオド）、_（アンダースコア）です。登録可能文字数は最大32文字です。キー操作は前述の「CPUブレード名の変更」を参照してください。

ブレード収納ユニット名（エンクロージャ名）に使用できない文字が含まれている場合、下記のエラーを表示します。<Esc>キー押下で[Enclosure Control Menu]に戻ります。



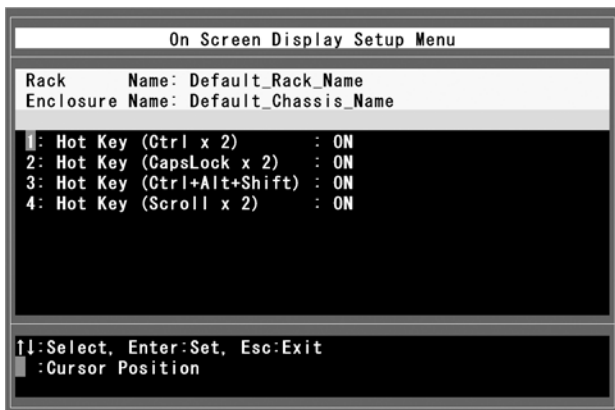
On Screen Display (OSD) Setup Menu

[Blade Selection Menu]で<F1>キーを押下することで[OSD Setup Menu]を起動することができます。[OSD Setup Menu]を起動すると下記のように表示されます。<Esc>キー押下で[Blade Selection Menu]に戻ります。



OSDホットキーの設定

[OSD Setup Menu]で「1:Hot Key Select」をカーソルで選択して<Enter>キー押下、または、<1>キー押下すると[Hot Key Select]メニューが下記のように表示されます。



カーソルでメニュー番号を選択して<Enter>キーを押下、または、数字<1>～<4>キー押下により各ホットキー設定のON（有効）/OFF（無効）を変更します。<Esc>キー押下で[OSD Setup Menu]に戻ります。

項目	機能
1 : Hot Key (Ctrl x 2)	<Ctrl>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSD簡易モードを起動します。
2 : Hot Key (CapsLock x 2)	<Caps Lock>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSD簡易モードを起動します。
3 : Hot Key (Ctrl+Alt+Shift)	<Ctrl>, <Alt>, <Shift>キーを同時に押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSDメニューモードを起動します。
4 : Hot Key (Scroll x 2)	<Scroll Lock>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSDメニューモードを起動します。



重要

出荷時の初期設定はすべてのホットキーがON（有効）となっています。オプションのサーバスイッチユニットを接続し、サーバスイッチユニット側で同じホットキーを使用する場合、有効なキーが重複しないように設定してください。

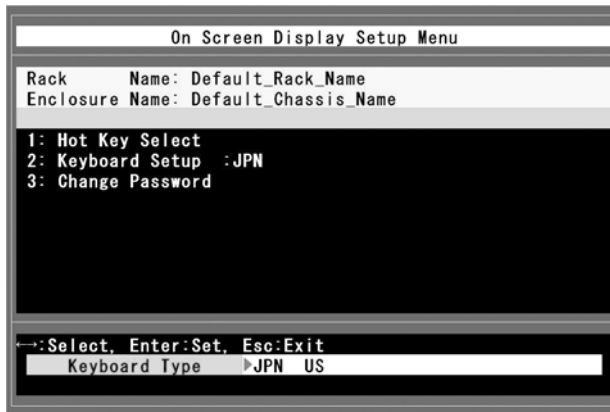
ホットキーと同じキーがアプリケーション等で重複して使用されている場合、有効なキーを選択して回避してください。

設定を変更した場合、[OSD Setup Menu]を終了する際に保存確認が表示されます。「保存しない」を選択した場合は以前の設定に戻ります。

Ctrl+Alt+Shiftのホットキーを使用される場合、Ctrlx2のホットキーも有効にしてください。

キーボードタイプの設定

[OSD Setup Menu]で「2:Keyboard Setup」をカーソルで選択して<Enter>キー押下、または、<2>キー押下すると[Keyboard Type]設定ウィンドウが下記のように表示されます。



<←><→>キーでカーソルを移動し、<Enter>キー押下により選択したキーボードタイプに設定を変更します。<Esc>キー押下すると設定を変更しないでウィンドウを閉じます。

選択可能な設定は2つです。

JPN : 日本語キーボード

US : 英語キーボード



初期設定はJPN（日本語キーボード）です。



設定を変更した場合、[OSD Setup Menu]を終了する際に保存確認が表示されます。「保存しない」を選択した場合は以前の設定に戻ります。

OSDパスワードの設定

[OSD Setup Menu]で「3:Change Password」をカーソルで選択して<Enter>キー押下、または、<3>キー押下するとパスワード入力ウィンドウが下記のように表示されます。



現在のパスワードを入力し、<Enter>キーを押下します。パスワードが一致した場合、新しいパスワードの入力に進みます。中止する場合は<Esc>キーを押下すると[OSD Setup Menu]に戻ります。



新しいパスワードを入力し、<Enter>キーを押下します。正しく入力された場合、確認入力に進みます。中止する場合は<Esc>キーを押下すると[OSD Setup Menu]に戻ります。



パスワードに使用可能な文字はA~Z、a~z、0~9、-（ハイフン）です。
パスワードの登録可能文字数は最大15文字です。



新しいパスワードを再度入力し、<Enter>キーを押下します。正しく入力された場合、パスワードが変更されます。

現在のパスワードが不一致の場合、または、新しいパスワードに使用できない文字が含まれている場合、下記のエラーを表示します。<Esc>キー押下でパスワード入力ウィンドウに戻ります。



新しいパスワードと確認パスワードが不一致の場合、下記のエラーを表示します。<Esc>キー押下で[OSD Setup Menu]に戻ります。



パスワードを変更した場合、[OSD Setup Menu]を終了する際に保存確認が表示されます。「保存しない」を選択した場合は以前のパスワードに戻ります。万一、パスワードを忘れてしまった場合は「3. コマンドラインコンソール機能の使い方」－「コマンドリファレンス」－「updateopcfw -c」を参照してセットアップ情報のクリアを実施してください。

OSDの設定保存

[OSD Setup Menu]終了時にセットアップに変更があった場合、保存確認が表示されます。保存する場合は、<Y>キーを押下します。保存しない場合は、<N>キー、または、<Esc>キーを押下します。保存したセットアップ情報はブレード収納ユニットの電源がOFFになっても保持されます。保存しない場合は変更した設定は破棄され、以前の設定に戻ります。



OSD簡易モード

OSD簡易モードでは現在KVM接続が選択されているCPUブレードの名称を画面左上に表示し、キーボード入力によってKVMの切り替えを行います。

A black rectangular box with the text "Blade-01" in white, representing the CPU blade name displayed in the OSD.

OSD簡易モードの起動

キーボードからホットキーを入力し、OSD簡易モードを起動します。
ホットキーの設定はOSDメニューモード、またはSIGMABLADEモニターのOSDセットアップメニューで変更可能です。

- **ホットキー選択可能キー**

OSDメニューモードを起動するホットキーは下記の2種類から選択できます。

<Ctrl>キーを2回連続で押下して離す（キーは素早く押ししてください）

<CapsLock>キーを2回連続して押下して離す（キーは素早く押ししてください）

- **操作タイムアウト**

約1分以上キーボード操作がない場合、簡易モードを終了します。



- OSD簡易モード動作中はOSDの操作にキーボードを使用しますので、CPUブレードで動作しているオペレーティングシステムなどをキーボードで操作することはできません。操作する場合はOSD簡易モードを終了してください。マウスによる操作はOSD簡易モード動作中も可能です。
- OSD簡易モード動作中はOSDメニューモードを起動することができません。OSD簡易モードが終了した状態で、OSDメニューモードを使用してください。

OSD簡易モードの操作

OSD簡易モードではKVM選択の切り替え、サーバ名常時表示モードの設定変更を行います。OSD簡易モードを起動すると画面左上に、KVMが接続されているCPUブレードの名称を表示します。

背景：マゼンタ色、文字：白色

<Esc>キー押下すると切り替えを行わないで簡易モードを終了します。

KVMの切り替え

数字キー <1>～<8>を押下することで、入力したスロット番号のCPUブレードにKVM接続を切り替えます。KVMの切り替えが終了すると背景が青色に変わり、約3秒後にOSD簡易モードを終了します。

サーバ名常時表示モードがONの場合は、サーバ名常時表示モードによるOSD表示に切り替わります。現在選択されているCPUブレードのスロット番号を選択した場合は無効です。<Esc>キー押下すると切り替えを行わないで簡易モードを終了します。

サーバ名常時表示モードの設定変更

<A>、または、<D>キーを押下することで、サーバ名常時表示のON/OFF状態を反転します。変更後、OSD簡易モードを終了します。サーバ名常時表示がONに設定された場合、簡易モード終了後にサーバ名常時表示モードに切り替わります。サーバ名常時表示がOFFに設定された場合、簡易モード終了後にOSD表示を終了します。<Esc>キー押下すると切り替えを行わないで簡易モードを終了します。

サーバ名常時表示モード

サーバ名常時表示モードでは現在KVM接続が選択されているCPUブレードの名称を画面左上に表示します。

背景：青色、文字：白色

サーバ名常時表示モード動作中もホットキー入力によってOSDメニューモード、OSD簡易モードを起動することができます。



Blade-01

サーバ名常時表示モードの起動

前述の「サーバ名常時表示モードの設定変更」を参照してください。OSD簡易モードでサーバ名常時表示モード設定をONに変更して簡易モードを終了するとサーバ名常時表示モードになります。サーバ名常時表示モードを終了する場合、OSD簡易モードを起動してサーバ名常時表示モードをOFFに変更します。